

前原、今……





我が高校時代

19期生 名嘉真 宜徳

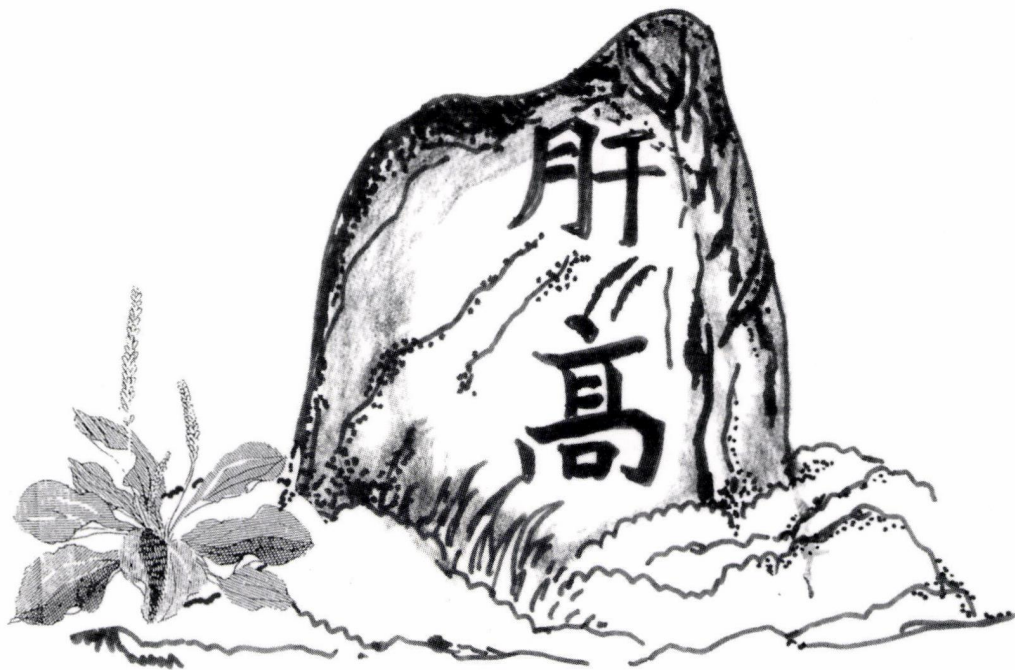
前原高校に赴任して四年目、三十八年の長い教職生活にピリオドを打つ定年を母校で迎える事になった。奇しくも本校の創立六十周年、私も還暦、この巡り合わせに密かに拍手を送っている自分がある。寄稿依頼があったので一筆したための破目になったが、格調高い文章は他に譲ることにして私は我が高校時代をプロジェクトX風に綴ってみたい。

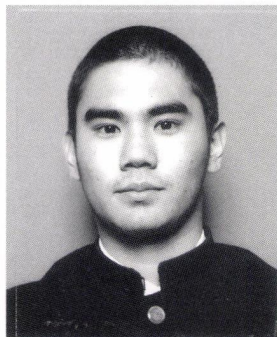
1961年〔昭和36年〕4月、本校に入学して高校生活をスタートした。今から四十余年前である。当時、市内の高校は本校と中部農林高校の二校だった。小さい学校〔川崎中学校〕から来た僕には高校生活は、途惑う事が多かった。四月の中旬だった。夏服を着て登校したら先輩に呼び出された。危うく愛の鉄拳を受けるところを知り合いの先輩がいて助かった。昼食時間は運動場に出て応援歌の練習があった。リーダー部の先輩が巡回をしながら、手の叩き方、声を出して歌っているか、はたまた制服の着け方、帽子のかぶり方など、いちいちチェックしている。一年生にとってはまさに、戦々恐々の応援歌練習であった。ようやく高校生活にも慣れた六月頃、優秀で真面目なクラスメイトが学校を休み始めた。担任は様子を見て来いと僕に言った。〔たまたま、僕の隣の部落だったため。当時は電話もあまり普及していなかった。〕彼に言った。「どうして学校に来ないの？」彼は言った。「面白くない！」退めて船乗りになって世界中を回りたい。夢を語った。しかし、どこかに、暗い陰が見えた。彼もまた、小さい学校から来て悩んでいた。僕の返した言葉は「そうか、僕も退めたいよ！」彼の力になることはできなかった。むしろ、彼の退学を早めてしまったかもしれない。彼は船乗りになった。僕は漫然とした気持ちで、入ったバレーボール部も、しばらくしてやめ、不完全燃焼で1年が過ぎた。二年になり、柔道部に入った。良き先輩達だった。特に、浪曲を口ずさむ主将は大きな体に似合わず優しい男だった。顧問は二日酔いの時には、花びんの水を飲みながら授業をする英語の先生だった。そんな時は決まって稽古の相手にされた。汗をかくための餌食である。〔故人の冥福を祈る〕二年の二学期、新人チームの主将になった親友が珍しく神妙に言った。「宜徳！野球部に入ってくれ！」今まで頼み事、泣き言を吐かなかった男の心に動かされ、翌日、坊主頭にしてグラウンドへ出た。友達に驚きと笑いでなんともいえない表情をしていた。〔今まで、坊主頭が嫌で野球部に入らなかった事を彼らはよく知っていたから〕

三年の夏休み、友達四名で自転車でヤンバル一周のキャンプに出た。出発後、間もなく事件は起きた。場所は宜野座の漢那ビーチ、学校を出発し最初の休憩地だった。ビーチに着いて間もなく、かわいい黄色い声が聞こえてきた。その声に誘われて近づいてみると、目映いばかりのきれいなギャル達が波打ち際ではしゃいでいた。懇願をしたら、カメラの前でポーズをとってくれた。水着の似合う3人の美女はバッチリカメラに納ま

った。住所・名前を聞き、写真を送ることを約束して、漠那ビーチを後にした。皆、満面に笑みを浮かべていた。ほどなくして、辺野古の基地の一面にすばらしいヨットハーバーが見えた。自転車を止め、早速ヨットハーバーを背にしてカメラを向けたら、シャッターを切る間もなく、一台のジープが横付け、二人の米兵が降りてきてカメラを取り上げ、待っていた二人はジープに乗せられ基地の中に消えた。残った二人は不安のあまり、為す術を知らなかった。しばらくして辺野古の交番に向かった。しかし駐在所は留守で仕方なく再び現場へ戻った。やがて、二人はジープで戻ってきた。基地内では銃を向けられて取調べをされたとのこと、重苦しい雰囲気の中、次の目的地へとペダルを踏んだ。カメラからはフィルムは抜かれ、美女達も敢え無く消えた。二学期になって通訳を伴って米兵が学校に来た。校長室に初めて入った。後は語らずとも……。夏休みも終わり、相変わらずの僕に、兄が言った。「警察官になるのも良いが、大学も受けてみたら？」たった一言であった。大学は考えてもみなかった僕の心に変化が起こった。高校生の進路決定ってそんなものかもしれない。そういう意味では、教師や親兄弟の何気ない一言が大きな意味を持つことがある。発言には心しなければならぬと自戒の今日この頃である。あの一言で僕の人生は変わってしまった。そんな自分が教師になって、今、母校で定年を迎えようとしている。時の流れの速さに驚かざるをえない。

結びにあたり、後輩の諸君へ一言、平成十八年度から制服も一新し、コース制の見直しもなされ、新たな前原高校を創造していく事になった。その主役を務めるのは勿論、生徒諸君である。どうか、今のこの一瞬を無駄にすることなく、輝く自分の将来を見つめて、日々、努力して高校生活を送ってほしい。
栄えある前原高校に期待しています。





60周年に寄せて

前生徒会長 島袋 恒太郎

今年で本校は60周年を迎えます。スポーツが盛んな高校として甲子園出場3回、各種スポーツ優勝と輝かしい歴史を持つ本校がこの伝統を受け継ぎいっそう発展して欲しいと思います。

さて、私は2年間生徒会自治活動に関わってきました。その中でいちばん苦勞をしたことは、「清涼飲料水自動販売機設置」の取り組みでした。この問題は、私が本校に入学したときからあった課題で、「生徒が楽しくなる学校」を目指していた私たち生徒会執行部にとって解決しなければならない一番の課題でした。しかし、これは、簡単には解決できない二つの理由がありました。まず一つは、全校生徒の9割の賛成を得なければならない事でした。そこで、全生徒対象にアンケートをとりました。

「本当に自動販売機が必要なのか。」という質問に対して9割を超える生徒が、「必要」と答えました。思っていたよりも、すんなりと課題が解決してホッとしたのもつかの間もう一つの課題が私を一番くるしめ、「自動販売機」設置の最大の壁となり、2年もの時間をかけてしまいました。

その課題とは、空き缶等のゴミの問題でした。「自動販売機を設置して、空き缶をその辺にポイ捨てしたヤツは誰が拾うのか？」とある先生に言われて困りました。確かに設置した事によって本校にゴミが多くなるのなら設置は出来ないと思いました。そこで生徒会執行部で何度もミーティングを行いました。「ゴミ箱の数を多くしたら大丈夫じゃないか?」、という意見がでました。がしかし、「ある高校では沖縄県で一番ゴミ箱は多いけれど、そのゴミ箱にゴミを投げ入れゴミ箱の周囲はゴミが散乱しているらしいよ。だから数を多くするだけではダメだよ。」という反対意見がでました。そこで、「みんなで掃除をすればいいさ。SHRが終わってから5分でもいいから掃除をしたら結構きれいになるはずだよ。」たしかに本校は800人の生徒がいるので、一人ひとりの空き缶を拾えば800本もの空き缶を拾う計算となり、どう考えても800本もの空き缶が落ちているはずはないので、設置前よりも学校がキレイになると考えました。このプランを持って先生方と話し合い、生徒総会で全員の賛成をもらい設置を決定させることができました。

その他にもいろいろとありました。4月には入学式がありました。前日から体育館での準備は大変でしたがバレー部、バスケット部が手伝ってくれて本当に感謝しています。そして式が始まる前に、卒業生の胸にリボンをつけますがこのリボンは生徒会が1週間かけて作ったものでとてもキレイでした。そして、1年生を前に生徒代表あいさつをするときに緊張している1年生を見ると、私までその緊張が伝わってきそうでした。入学式は、生徒会執行部全員が各自の仕事をしっかりとこなしたので問題なく終わりました。この一つの行事だけでも、多くの人が動き成功させたのだと実感しました。そして、5月、1年生を迎えての新入生歓迎球技大会を行いました。今年は、1・2学年は7クラスで3学年だけが8クラスまであり、兄弟学級を組むためには二クラス足りない事になりました。そこで、西と東に分けて取り組むことにしました。競技はドッジボールを行いました。そこでも感じたことは、一人一人がそれぞれの仕事をしっかりとこなせば、全体ではスゴイ事になるということでした。

この2年間を通して、私が生徒会活動で学んだことは、一人では何もできなくてもみんなでやれば大きな行事も取り組めるということです。そして、一人がミスしてもそれをお互いでカバーすれば物事は成功するということが分かりました。間もなく卒業ですが、これを忘れずに人生に役立てていきたいと思います。



思い出多き3年間

3年1組〔体育コース〕 砂川 真莉子

私が前原高校の体育コースに進学を決めたのは、重点種目の中にバレーボールがあり、県でも上位に入る実績と伝統を誇るバレーボール部があったからです。

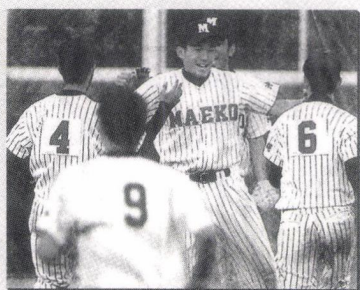
私の三年間は、バレーボールに懸けた日々でした。毎日厳しい練習をこなし、一緒にがんばってきたチームメイトが辞めたりとチームが落ち込んだりした時もありましたが、最後の大会では県三位という結果を残すことができました。私がバレーボールを頑張ることができたのは、体育コースで自分の重点種目を体育Ⅱ・Ⅲという授業の中で行い、技術向上を図れたからです。また、私達は勉強とスポーツの二つを両立しなければいけません。体育コースはスポーツの好きな人たちが集まったクラスなので、授業も元氣いっぱいいつでもにぎやかに勉強しています。そのため、毎日楽しく充実した毎日をおくっています。

体育コースには三年間を通してキャンプ実習、マリン実習、スキー実習があります。キャンプ実習ではテントを自分達で組み立てて、そこで寝泊りをし、ご飯も班ごとに分かれて作ったりと、自然の中で一日を過ごします。マリン実習では久米島のきれいな海でスキューバーダイビングを体験します。思っていたよりも大変でしたが、海の中は神秘的で地上とは違う世界を見ることができました。その他にも、バナナボードやジェットスキーなど久米島の海を満喫しました。そして、最後のスキー実習では北海道でスキーを体験しました。初めてのスキーは、戸惑いましたが体育コースということだけあって、すぐに上達し、クラスのほとんどが一人で滑れるようになりました。きれいな雪景色を見ながらのスキーはとても貴重な体験でした。

私達のクラスが一番盛り上がるのは校内陸上や体育祭です。体育コースが中心になり、競技を盛り上げます。今年行われた体育祭では、全体育コースで行う集団行動、列になり行進をしたり、二手に分かれて行進し、走ったりといった集団演技をしました。全員が息を合わせないと成功できません。そのために、たくさん練習を重ねました。その中でも、男子の「矢倉」は、みんなが見守る中、一段目、二段目と続き、そして最後の三段目では緊張感溢れる中、見事に矢倉を成功させ、会場に来ていた全ての人々から大きな拍手をもらいました。そして、学年代表リレーでは、全体育コースが全て一位を獲得しました。部活動で培った運動能力とチームワークが光りました。

この三年間で、私達は他のコースにはないたくさんの経験をする事ができました。勉強もスポーツもできる体育コースは大変そうに思えますが、毎日が充実し、他のコースでは体験できない行事がたくさんあります。私達はもうすぐ前原高校を卒業し、社会に出て行きますが、体育コースで得た忍耐力や人の中心になり引っ張っていく力を、今後生かしていきたいと思います。そして、私達の後続く後輩が、この素晴らしい前原高校を受け継ぎ、さらに良い学校にしてくれることを願っています。

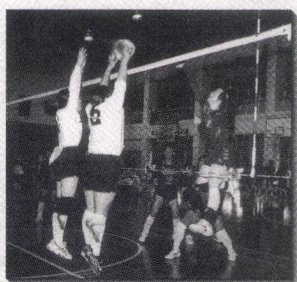
野 球



スキー実習



バレーボール



剣 道



マリンスポーツ実習





生徒会活動を通して

生徒会長（2年7組） 山田 樹

私が生徒会長になって初めて取り組んだのは、夏休みに行われた「沖縄県高等学校生徒代表者会議」でした。

沖縄市の教育センターで沖縄県の各地から集まった学校代表の生徒と、身なりのことや各学校の問題点についてその解決法について話し合いました。多くの高校生が参加し十数名のグループ単位で話し合いました。「制服の乱れをどう改善すればよいのか。」という質問が出され、ある高校の取り組みが紹介されました。その取り組みは、生徒会役員の男性子が女子の制服を着けて舞台に上がり、スカートの丈の長さを変え、全盛とで話し合ったということでした。それが大きな改善につながったということでした。私はこの会議で発言もしっかりでき他の学校の意見やアドバイスも聞けたので満足できる内容でした。

夏休みには、もう一つ仕事をしました。夏休み明けに行われる体育祭テーマの垂れ幕作りを生徒会役員で取り組んだことです。役員全員での初めての仕事は、経験者もいたので互いに教えあいながら順調に進み休み中に完成させることができました。テーマは「誰よりも速く、誰よりもカッコよく、風のよりに走り、炎のように燃えろ！！肝高魂」で、10月7日の体育祭に、生徒が一丸となって取り組みたいという思いが込められています。

体育祭当日は、開会のあいさつと全体指揮を受け持ちました。初めて人前でのあいさつは非常に緊張しました。全体指揮では人を動かすことの大変さを痛感しました。

また、私は二学期始業式のあとの役員認証式で校長先生から生徒会長の認証状を授与されました。生徒会長に整式に認定され、前原高校をいっそう良くしたいと強く思いました、

記念時事業のひとつである、60周年記念碑の除幕式に私は参加しました、

除幕式には、金城千代徳同窓会長、宮里勝二PTA会長、比屋根充校長、記念碑の揮毫者下地武夫氏が参加され、先生方、バレー部、野球部、サッカー部が見守る中、序幕式が開かれました。

私は、とても緊張しましたがしっかりと生徒代表あいさつを述べることができました。私は、校訓にある「進取・誠実・責任」の気持ちを持って頑張ることを誓いました。その後、いよいよ記念碑の序幕です。序幕紐を持ち合図で四人が同時に紐を引きました。が、しかし、布がなかなか取れません。その時、宮里PTA会長が力いっぱいひいたので幕が開かれました。碑の真ん中には、校訓がしっかりと刻まれ、その頂上には、60の文字をかたどったモニュメントがどっしりとあり、その形は、0（ゼロ）の中に、卵形の石を抱いて、それは0（ゼロ）を表すとともに卵をも表しています。この卵から孵ったヒナが成長し、はばたいていく可能性を示しています。この碑には、60年の歴史が刻み込まれているとともに、前原高校の新たな一歩が、今刻み込まれると私は思いました。

冬休みには、生徒会役員、ボランティア部、希望者と一緒に天願川を清掃しました。天願川は、昔から汚れていると聞いていましたが、この清掃が続いているせいか、キレイに見えました。私は2人で天願川を周りました。遠めで見るとキレイに見えたのに発泡スチロールや家電製品などが散乱していました。家電製品などは分解、分類をして袋にいれ収集している地域の方に渡しました。草が生い茂る場所

は、みんな手分けし、草を仮りキレイにしました。清掃が終わるとすっきりとし見違えるようになりました。この清掃が続けば、天願川はもっとキレイになるでしょう。

私は、生徒会長として、この短期間で、今までは体験したこともないことを学ぶことができました。そして、自分が日頃学ぶことのできないことを学ぶことができました。日頃感じたこともないことを感じ、視野が広がったことで、様々なことに興味関心を持つようになりました。さらに、前原高校にも一歩一歩歩んできた歴史があり築きあげたもの感じ、さらに飛躍していくことを強く意識しました。

